

2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明会

2024年12月3日

テイカ株式会社

東京証券取引所プライム市場 証券コード：4027

本資料における業績予想および将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご了承おきください。



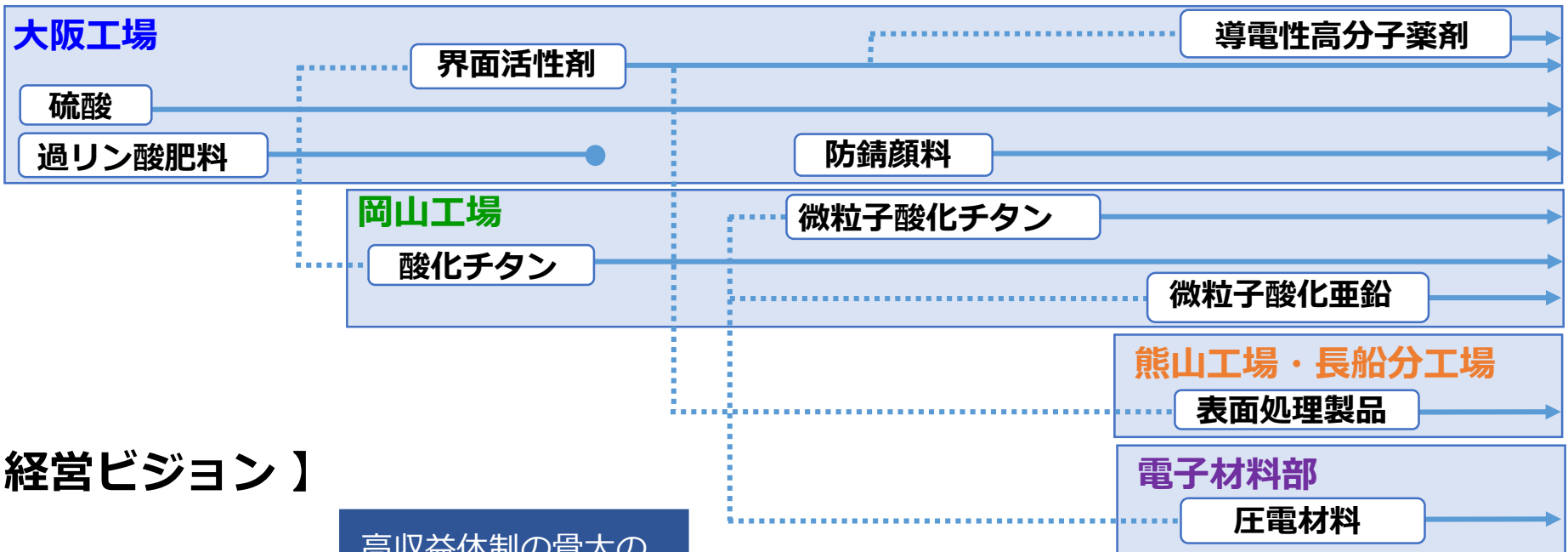
目次

1. 経営ビジョン
2. 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算概要
3. 2025年3月期 通期業績予想
4. 株主還元
5. 付属資料

1. 経営ビジョン

- ・ 価値創造ストーリー
- ・ 長期経営ビジョン MOVING-10 (2020-2029年度)
- ・ 中期経営計画 MOVING-10 STAGE2 (2024-2026年度)

価値創造：100年を超える製品開発の歩み



【経営ビジョン】

高収益体制の骨太の「強いテイカ」に成長

- ①基盤事業の安定化
- ②成長事業の強化
- ③次世代事業の育成

Challenge100
(2010-2019年度)

MOVING-10
(2020-2029年度)

経営理念

**テイカグループは、
化学の力で感動の素を創り、
世界に夢と笑顔を届けます。**

コーポレートスローガン

まじめに感動素材

価値創造プロセス

社会とお客さまの存在を中心に位置づけ、
期待と予想を超える「感動素材」を
提供し続ける。

テイカグループの経営方針

1. 全員参加の経営
2. 社会貢献と企業価値の増大
3. 地球環境との調和
4. コンプライアンスの徹底
5. 情報の開示



テイカグループは「感動」を創り出すため、
お客さまや社会の期待や予想を超えることを
目指し、「まじめに感動素材」の創出への
挑戦を続けます。

長期経営ビジョン MOVING-10 (2020-2029年度)

基本方針

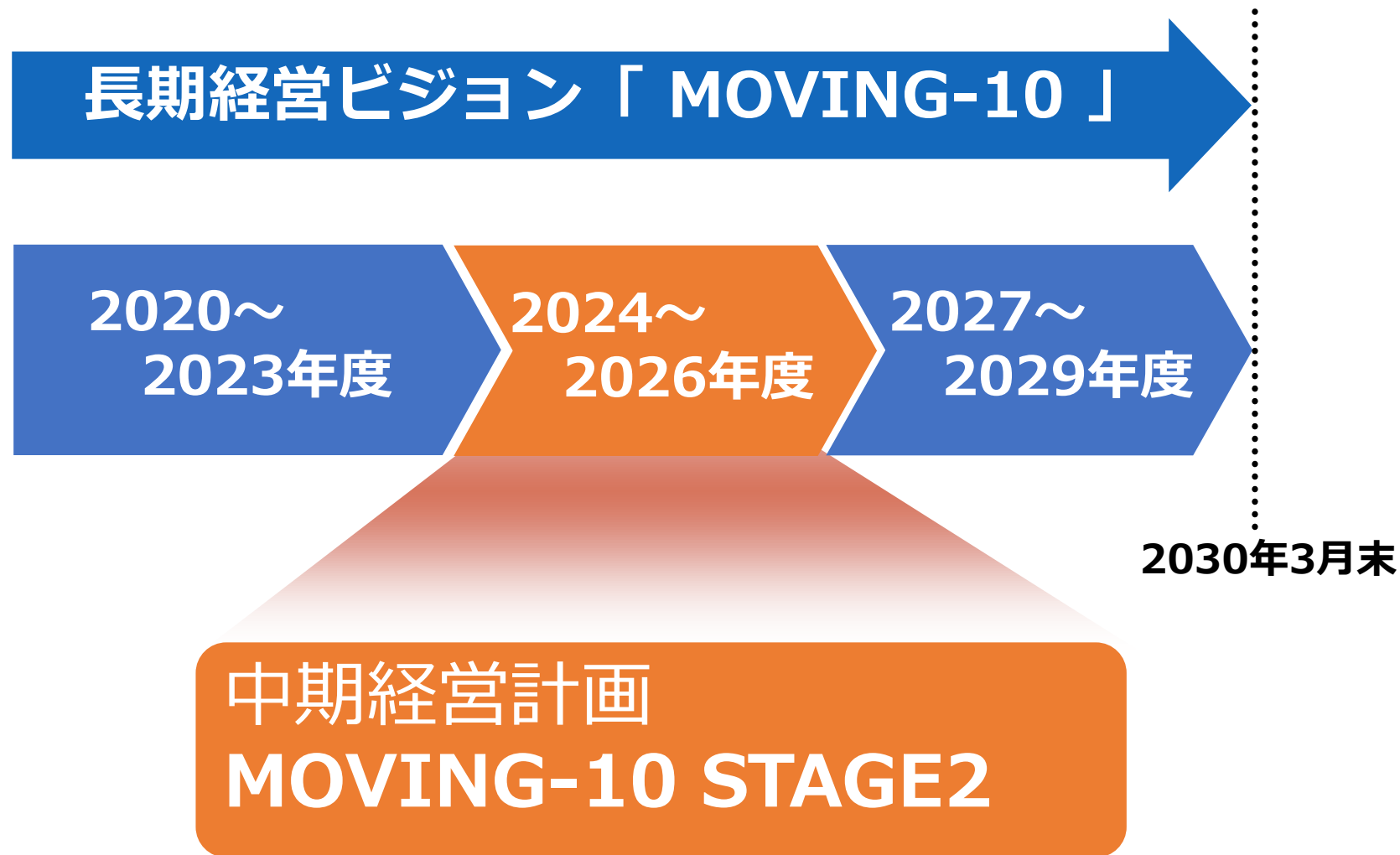
- ①強みの成長事業へ経営資源をシフト
- ②グローバルニッチトップ製品の創出
- ③環境変化に応じた事業構造の変革
- ④グループシナジーの活用

目標経営指標

2029年度	目標経営指標
営業利益率	15%以上
R O E	12%以上

- ▶ ESGの3つを最重要課題として積極的に取り組み、事業活動を通してSDGsで提唱されている課題解決に貢献します。
- ▶ 研究開発方針 事業環境変化を捉える技術開発、事業基盤強化を図ります。また、技術要素の進化をスピード感を持って進めます。

中期経営計画 MOVING-10 STAGE2 (2024-2026年度)



中期経営計画 MOVING-10 STAGE2

基本方針

事業戦略

- ◆ 営業利益率の回復
- ◆ 競争優位事業への積極投資と増強
- ◆ 事業の選択と集中
- ◆ 新規事業の実現
- ◆ プロセス改善と生産性向上

財務・非財務戦略

- ◆ 資本効率経営とテイカブランドの確立
- ◆ 人的資本拡充
- ◆ CO₂の削減

STAGE2における具体的な方針

- ライフサイエンス分野
【拡大】トップメーカーとしての市場席巻
- 環境エネルギー分野
【成長と拡大】導電性高分子薬剤の収益化
- ケミカル分野
【効率化】コスト削減と運営体制再構築
- インダストリアル分野
【進化】シナジー追求とコア事業化
- 新規事業
【創出】新規事業の育成と実業化

- 資本効率経営とテイカブランドの確立
資本コストを上回るROEの向上
全社KPI運営とキャピタルアロケーション導入
株主還元充実と株主・投資家との対話活性化
- 人的資本拡充
情熱人材創出とエンゲージメント向上
- CO₂の削減
CO₂排出削減計画(ロードマップ)の遂行

中期経営計画 MOVING-10 STAGE2

目標経営指標

	STAGE 1	STAGE 2	
	2023年度 実績	2026年度	
		目標経営指標(連結)	2023年度比
売上高	530億円	680億円	+150億円
営業利益	23億円	60億円	+37億円
営業利益率	4%	9%	+5%
ROE	3%	7%	+4%
EBITDA	55億円	105億円	+50億円

【財務・資本政策】

STAGE 2	
総投資額 (うち成長投資)	220億円 (115億円)
総還元性向	40%以上

機能性材料事業：（汎用用途）酸化チタン

事業 内容

- ・ **機能性材料事業**

主に酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品を製造、販売。

- ・ **電子材料・化成品事業**

主に圧電材料、導電性高分子薬剤、界面活性剤、硫酸、無公害防錆顔料を製造、販売。

酸化チタン

優れた白色顔料として、塗料、印刷インキ、プラスチック、化学繊維、製紙などに用いられ、生活空間のあらゆる場所に使用



酸化チタン 外観

基本戦略

コスト削減と運営体制再構築

- ◆ 大胆なコスト削減策の検討と実行
- ◆ 市場環境に応じた販売推進と在庫管理の徹底
- ◆ 2030年CO2半減に向けたロードマップ完遂

主要施策

効率化と環境対応

- ◆ 生産の効率化によるコスト削減
- ◆ 燃料転換と熱回収によるCO₂削減

機能性材料事業：機能性微粒子製品

機能性微粒子製品

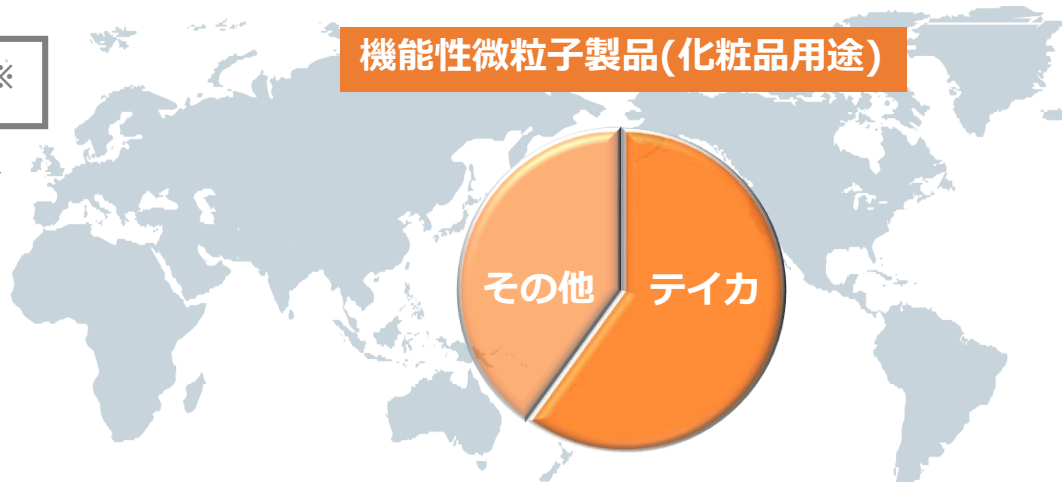
機能性微粒子製品には、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛および表面処理製品があり、日焼けの原因となる紫外線を遮蔽する材料として、日焼け止め化粧品やファンデーションなどに使われています。

微粒子酸化チタン製品は、2014年に経済産業省の「グローバルニッチトップ企業100選」に選定されました。

微粒子製品の世界市場シェア※

※日焼け止め化粧品用途の世界市場シェア、当社調べ

機能性微粒子製品(化粧品用途)



基本戦略

トップメーカーとしての市場席巻

- ◆ グローバルトップとして、市場拡大に応じた更なるシェアの拡大
- ◆ 市場ニーズに応じた継続的な新製品開発と投入

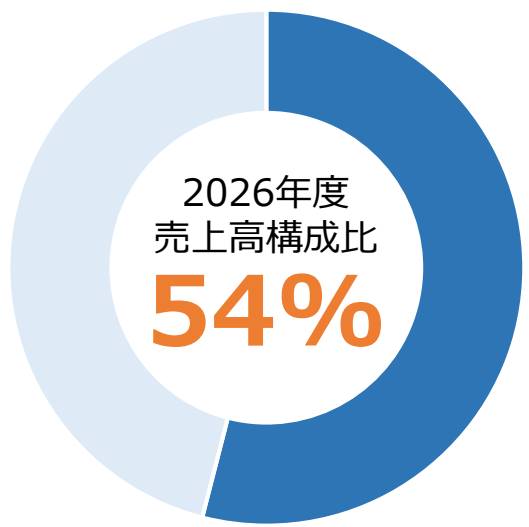
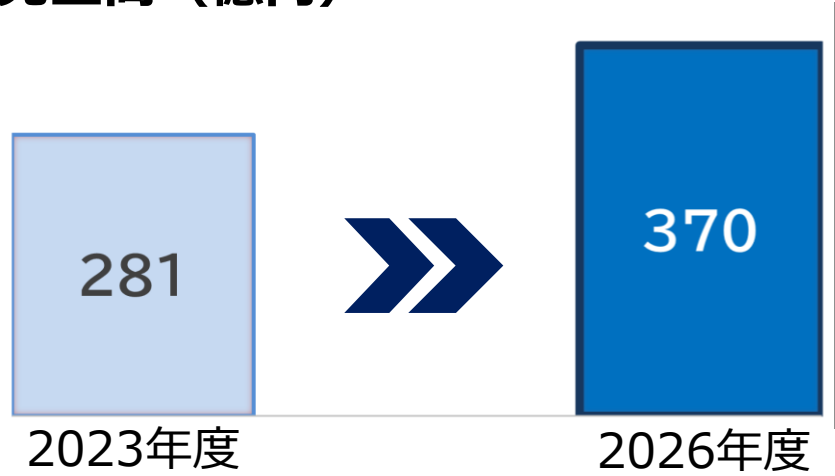
主要施策

経営資源の集中と投資増強

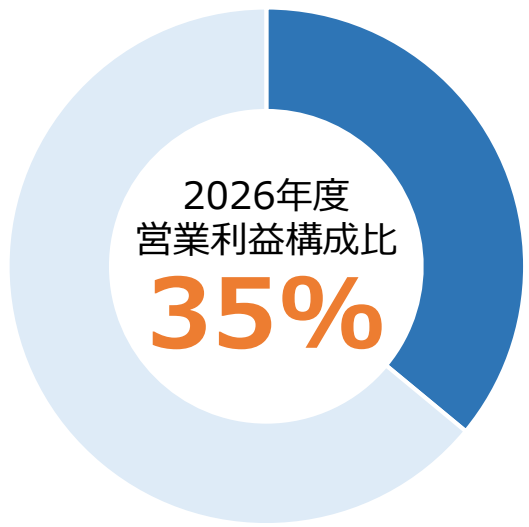
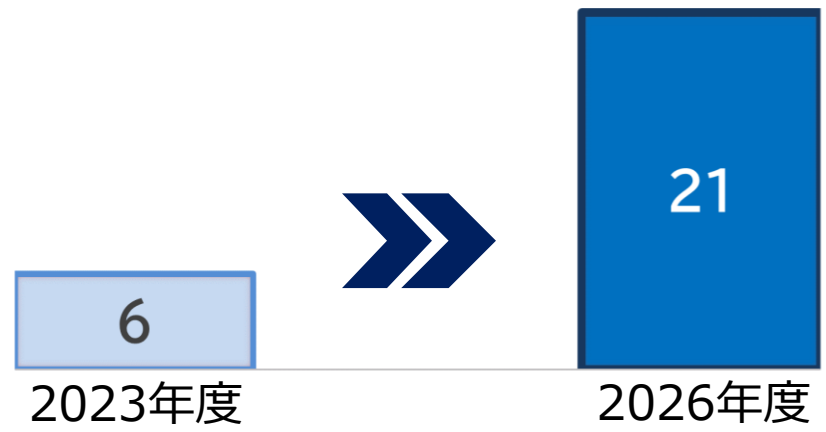
- ◆ 機能性微粒子製品の新工場建設による生産能力拡充
- ◆ 研究開発/営業人員増強による販売拡大

機能性材料事業：目標経営指標

■売上高（億円）



■営業利益（億円）



電子材料・化成品事業：界面活性剤

事業 内容

- ・機能性材料事業

主に酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品を製造、販売。

- ・電子材料・化成品事業

主に界面活性剤、導電性高分子薬剤、圧電材料、硫酸、無公害防錆顔料を製造、販売。

界面活性剤

水と油の両方になじみやすい性質をもち、洗浄、乳化、分散、可溶化などの働きを利用して、洗剤、シャンプーなど生活用品から工業分野にまで広く使用



界面活性剤 外観

基本戦略

コスト削減と運営体制再構築

- ◆ 顧客基盤の維持拡大と海外展開による収益性向上
- ◆ 効率化/コスト削減の遂行
- ◆ 3拠点（日本・タイ・ベトナム）一体運営における安定した事業体制の確立

電子材料・化成品事業：導電性高分子薬剤

導電性高分子薬剤

電気を通すことのできる高分子材料で、コンデンサ、帯電防止、タッチパネル分野などの用途で使用されています。今後、自動車のEV化や自動運転、生成AI(人工知能)の普及拡大による需要の増加が期待できます。



基本戦略

事業の成長と拡大

- ◆ 製・販・研一体運営とお客さまニーズに応じた当社対応力強化
- ◆ 市場シェアの拡大

主要施策

経営資源の集中と投資増強

- ◆ 導電性高分子薬剤の生産能力増強に向けた設備投資
- ◆ 研究開発・営業人員の増強

電子材料・化成品事業：圧電材料

圧電材料

電圧を加えることで伸縮を繰り返し、その振動を利用して超音波を発生させることができる材料です。エコー検査に使われる医療用超音波診断機は、この機能が利用されています。

圧電セラミックス材料は、2020年に経済産業省の「グローバルニッチトップ企業100選」に選定されました。

圧電材料の世界市場シェア※

※医療系圧電材料の世界市場シェア、当社調べ

医療系圧電セラミックス・単結晶材料



基本戦略

トップメーカーとしての市場席巻

- ◆ 日米一体運営による開発/製造/販売体制の強化
- ◆ 更なる差別化による圧倒的シェア獲得

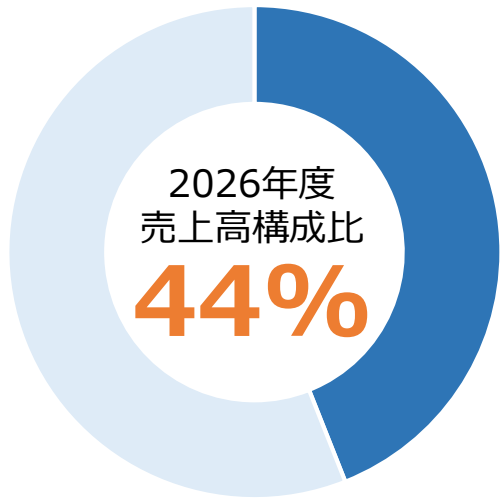
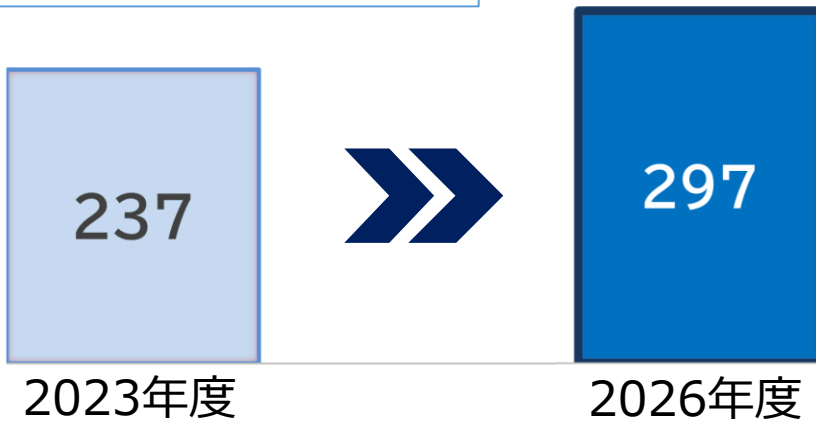
主要施策

経営資源の集中と投資増強

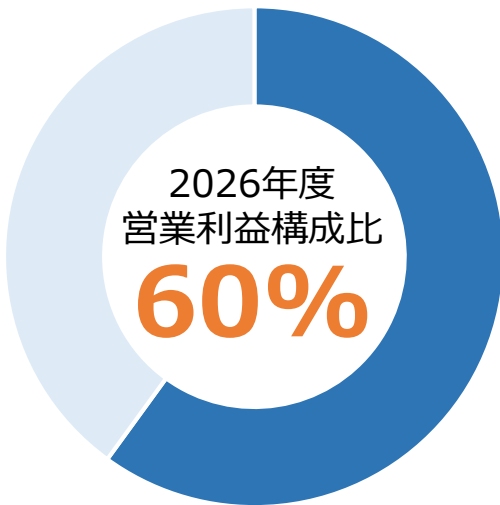
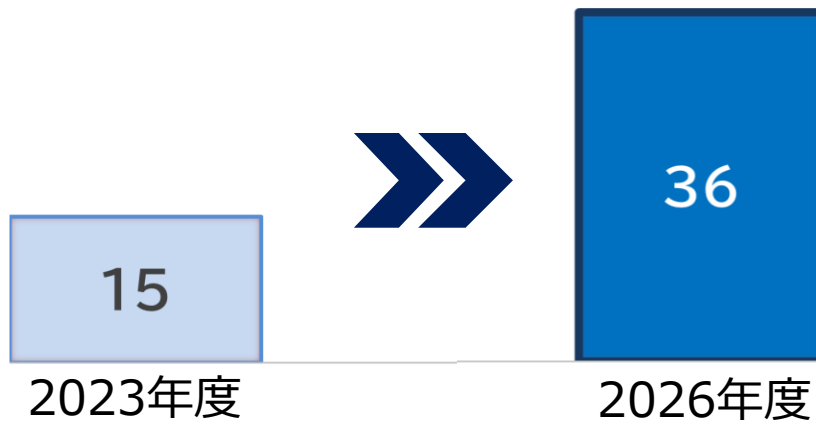
- ◆ リソース増強による単結晶・セラミックス商品の生産能力増強と販売拡大

電子材料・化成品事業：目標経営指標

■ 売上高（億円）



■ 営業利益（億円）



最新の設備投資の状況

機能性微粒子製品製造設備の新設

機能性微粒子製品の需要拡大に対応すべく、製造設備の新設を決定しました。国際的な製造品質管理基準「原薬GMP」対応の設備であります。

【機能性微粒子製品製造設備の概要】

- (1) 生産品目
機能性微粒子製品
(微粒子酸化チタン・微粒子酸化亜鉛・その他)
- (2) 生産能力
1,000トン/年
- (3) 新設設備所在地
岡山県赤磐市小瀬木50番地22
- (4) 完成時期
2025年6月末予定
- (5) 設備投資額
約50億円の予定
- (6) 設備新設による売上高増の見通し
2030年度で約50億円の売り上げ増を目指す。

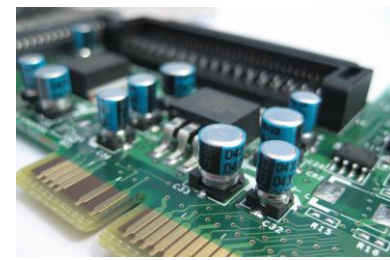


導電性高分子薬剤の生産能力増強

導電性高分子薬剤は、車載用コンデンサ用途での採用も決定し、今後、販売数量がさらに増加するものと考え、生産能力の増強を決定しました。

【導電性高分子薬剤の生産能力増強の概要】

- (1) 生産品目
導電性高分子薬剤
- (2) 増強後の生産能力
2023年度の約3倍の生産能力
- (3) 新設設備所在地
大阪府大阪市大正区船町1丁目3番47号
- (4) 完成時期
2026年度
- (5) 現在の売上高の3倍以上を目指す。



新規事業の育成と事業化

基本方針

「まじめに感動素材」



お客さまが感じる困りごとや課題を自ら感じ捉えることで認識のギャップ(=距離)をゼロにして、真の困りごとを解決できる「感動素材」を提供する

目標 (KPI)

STAGE2最終年度（2026年度）の
新規事業の売上高目標額

売上高 10億円

持続的かつ成長性のある新たな分野にて、
製品・サービスの創出と事業化

戦略

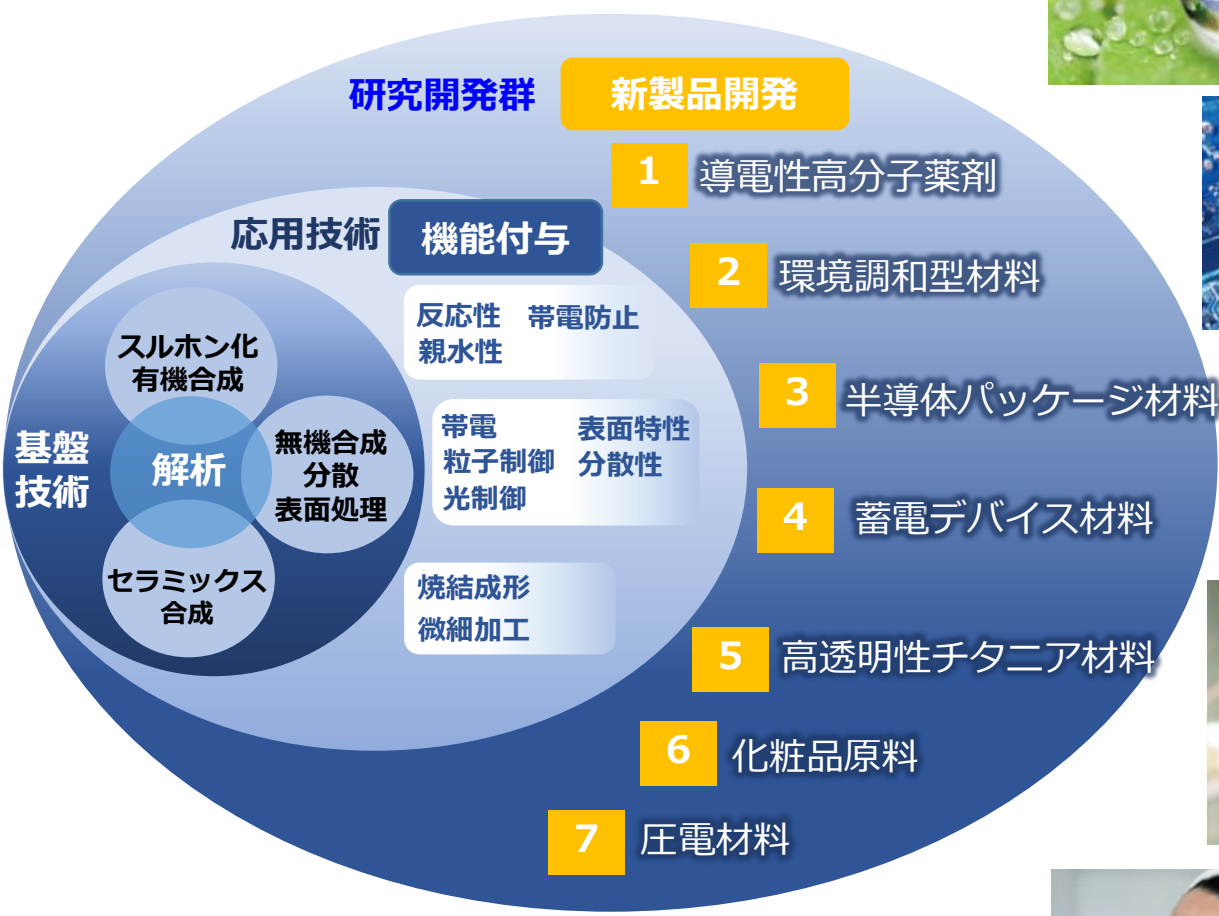
開発の加速とビジネス展開

- ・ヘルスケア分野へはこれまでに構築した技術やチャネルを活用した新たな製品とサービスの提供
- ・コアコンピタンスを活用したエレクトロニクスを中心とした新規分野への進出
- ・ビジネス化に向けた能動的な市場開拓と積極的研究開発投資

コアコンピタンスの活用・深化

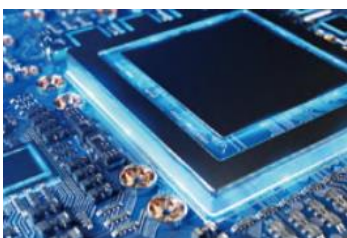
- ・DXを活用した材料開発力とマーケティング力の強化
- ・協業&共創によるオンリーワン技術の獲得
- ・コアコンピタンスの共有と育成

新規事業の育成と事業化



環境調和型材料

バイオマス原料活用や
グリーンケミストリーの適応
による低炭素化製品の創出



半導体パッケージ

無機化合物の形態制御と
表面処理技術を融合し、
半導体パッケージ分野に展開



次世代蓄電材料

無機合成技術により
次世代の蓄電池の
性能向上に不可欠な
素材を提案



高透明無機材料

微細化技術と分散技術
により、光学素子分野
への開発品投入



化粧品原料

UV遮蔽剤の開発と
新たな化粧品原料の提案

新規事業の育成と事業化：開発技術

**国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)が主催する
化粧品学術大会「IFSCC Congress」において、
2年連続 トップ10を受賞！素材メーカーとして快挙達成！**

2023年9月 スペイン バルセロナ大会

(発表タイトル)

処方技術と原料設計技術を駆使した高い紫外線防御能を有する
水中油(O/W)型のミネラルサンスクリーン(日焼け止め)の設計



2024年10月 ブラジル イグアス大会

(発表タイトル)

高度な分散技術を用いた多機能な新規SPFブースト材料：
優れた紫外線防御効果をもつミネラルサンスクリーンを実現する、
酸化チタンを均一に内包した球状シリカ



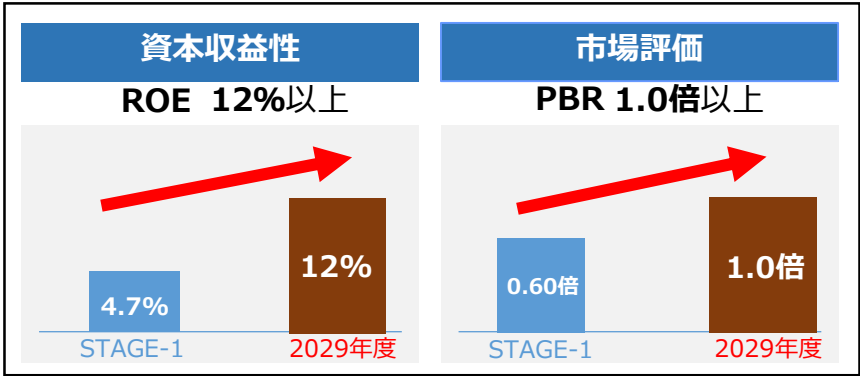
基本戦略

ROEの向上：資本効率経営

- ✓ 株主資本コストを上回るROEの向上
- ✓ 全社KPI運営とキャピタルアロケーション導入

PBRの向上：IR活動の強化

- ✓ 株主還元充実と株主・投資家との対話活性化
- ✓ 広報・発信活動の強化



経営目標

「持続的な成長と中長期的な企業価値向上に向けて」

	経営指標	STAGE1平均値	STAGE2 (2026年度)	MOVING-10 (2029年度)
資本効率	ROE (自己資本利益率)	4.7%	7%以上	12%以上
	PBR (株価純資産倍率)	0.60倍	1.0倍以上	1.0倍以上
株主還元	総還元性向	40.3%	40%以上	40%以上

財務戦略：資本効率経営に向けた取り組み

キャピタル・アロケーションの導入【STAGE2期間】

キャッシュ創出
キャピタル・アロケーション

有利子負債活用
＋
政策保有株縮減
60億円

戦略投資
115億円

3年間営業CF
200億円

基盤強化投資
105億円

株主還元
40億円

戦略投資

～収益の源泉となる成長投資を加速～

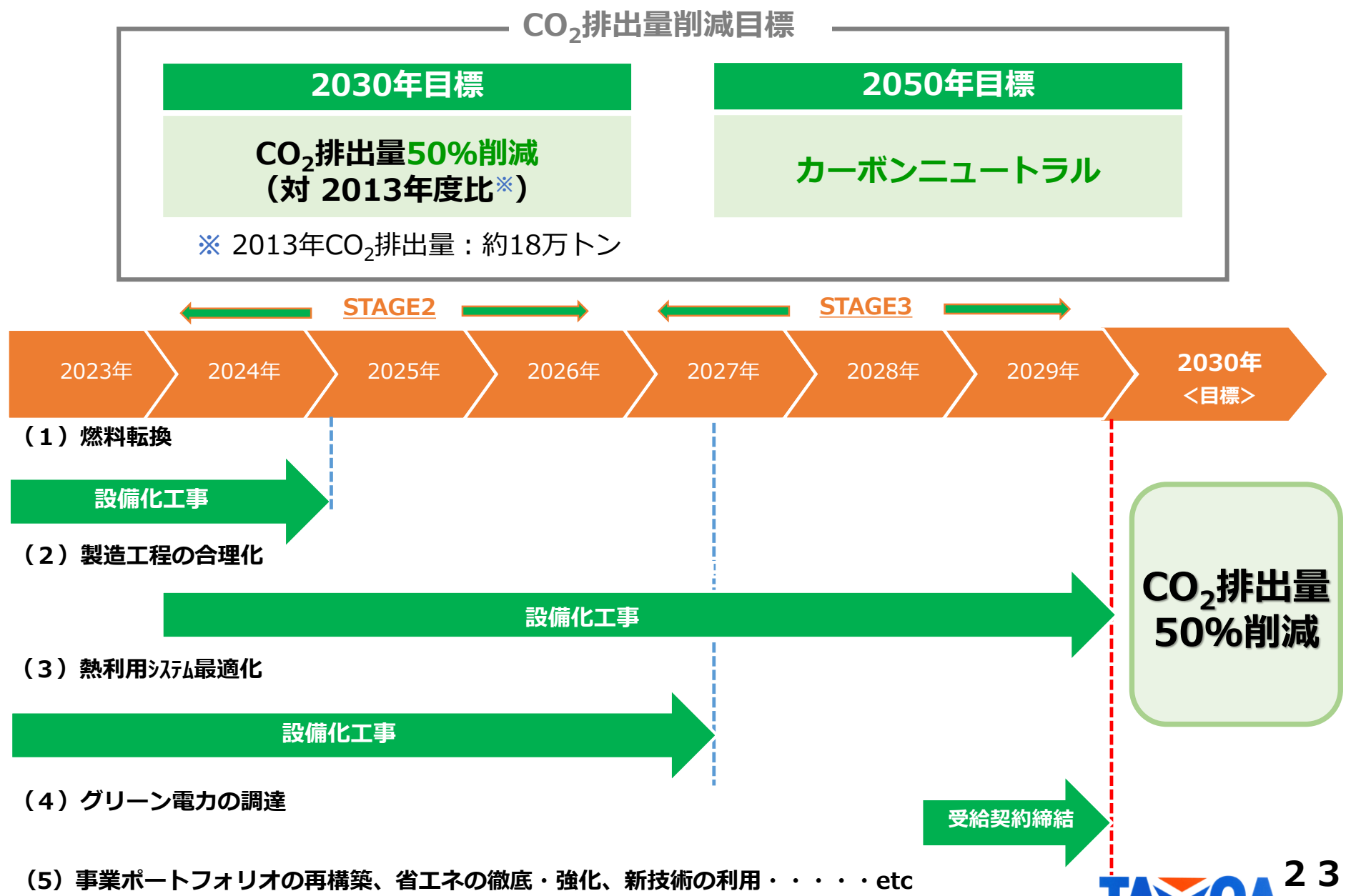
- ◆ 機能性微粒子製品新工場建設：約50億円
- ◆ 新規事業創出と研究開発投資：約40億円

株主還元方針

～安定配当と株主への利益還元重視～

- ◆ 総還元性向40%以上を目標化
- ◆ 積極的な自己株式の取得を実施
 - ① 2024年2～3月に約16万株の取得完了
 - ② 2024年11～翌年3月までに約20万株の取得を実施中

非財務戦略：CO₂削減



2. 2025年3月期 第2四半期(中間期)決算概要

決算概要

当中間連結会計期間における日本経済は、インバウンド需要の拡大や雇用・所得環境の改善等を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、為替の変動や不安定な国際情勢を起因とする原燃料価格の高止まり、中国の国内需要の低迷による経済の下振れ懸念等、依然として先行きは不透明な状況で推移しました。

このような状況の下、微粒子酸化チタンを中心に化粧品向け機能性微粒子製品の販売が好調であったとともに、車載用コンデンサ向け導電性高分子薬剤の販売が伸長したこと等により、売上高および利益ともに増加する結果となりました。

2025年3月期 第2四半期(中間期)連結経営成績

	2024年3月期 中間期実績	2025年3月期 中間期実績	前年同期比 (%)
売上高(百万円)	27,098	27,957	+3.2
営業利益(百万円)	1,402	2,183	+55.6
経常利益(百万円)	1,655	2,233	+34.9
親会社株主に帰属する 中間純利益(百万円)	1,127	1,468	+30.3

事業別売上高・営業利益

(単位：百万円)	2024年3月期 中間期実績		2025年3月期 中間期実績		前年同期比（％）	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
機能性材料事業	13,905	412	14,803	1,124	+ 6.5	+ 172.6
電子材料・化成品事業	12,580	869	12,594	936	+ 0.1	+ 7.7
小 計	26,486	1,281	27,398	2,060	+ 3.4	+ 60.8
その他	611	120	559	123	- 8.5	+ 1.2
合 計	27,098	1,402	27,957	2,183	+ 3.2	+ 55.6

事業内容

【機能性材料事業】

主に酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品を製造、販売。

【電子材料・化成品事業】

主に圧電材料、導電性高分子薬剤、界面活性剤、硫酸、無公害防錆顔料を製造、販売。

【その他】

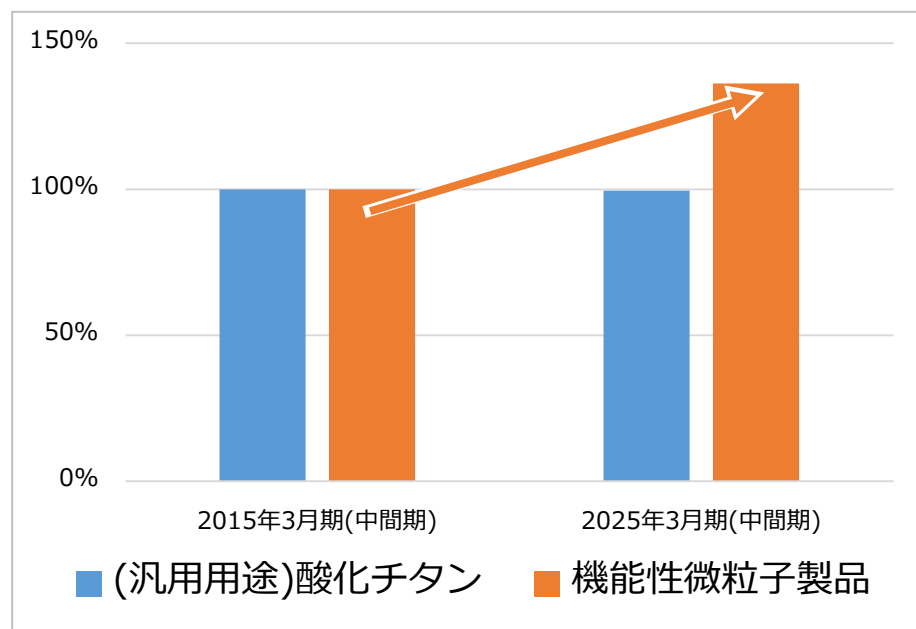
倉庫業、エンジニアリングおよびセグメント間取引消去額を含んでいます。

機能性材料事業および電子材料・化成品事業の製品群別の販売数量推移

10年前(2015年3月期中間期)と今期中間期における両事業セグメント内の代表的な製品群の販売数量の推移を示したグラフを以下に示す。

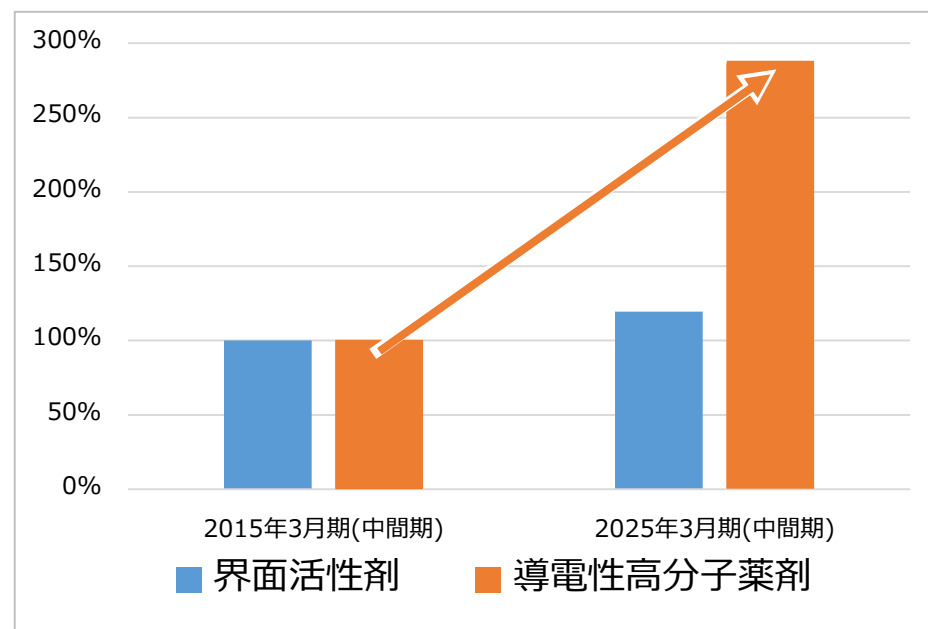
(数値は2015年3月期(中間期)の販売数量を100%とした場合の販売数量対比で示す。)

機能性材料事業



機能性微粒子製品：
微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、表面処理製品の合計販売数量

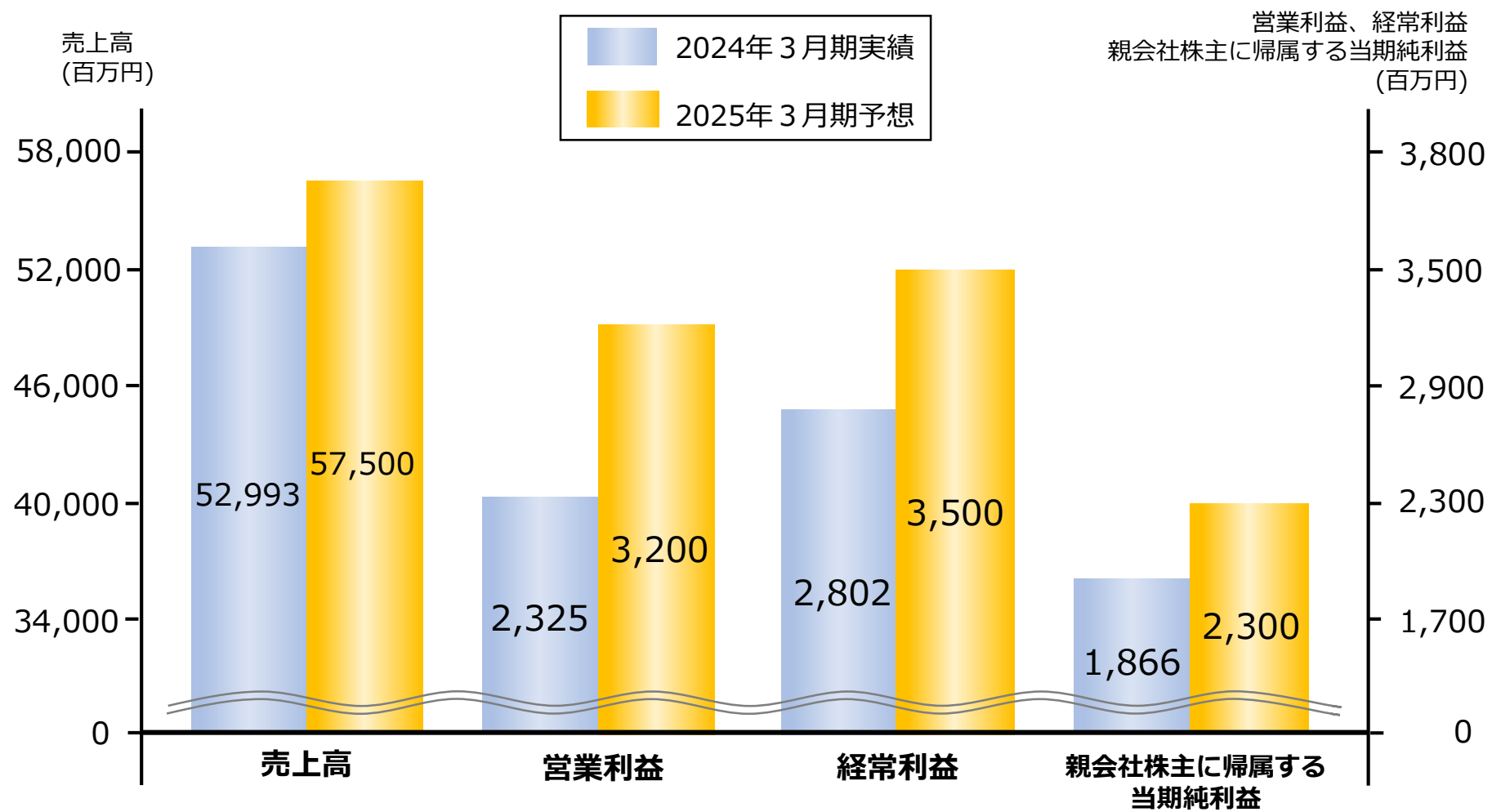
電子材料・化成品事業



3. 2025年3月期通期 業績予想

2025年3月期 業績予想

2025年3月期の連結業績予想につきましては、売上高は575億円（前期比8.5%増）、営業利益は32億円（前期比37.6%増）、経常利益は35億円（前期比24.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は23億円（前期比23.2%増）となります。



2025年3月期 業績予想(事業別売上高、営業利益、EBITDA)

【機能性材料事業】

機能性材料事業は増収、増益の計画であります。

【電子材料・化成品事業】

電子材料・化成品事業は増収、増益の計画であります。

(単位：百万円)	2024年3月期実績			2025年3月期予想		
	売上高	営業利益	EBITDA	売上高	営業利益	EBITDA
機能性材料事業	28,074	562	2,528	31,480	1,250	3,370
電子材料・化成品事業	23,663	1,461	2,269	24,860	1,710	2,770
小 計	51,738	2,024	5,099	56,340	2,960	6,140
その他	1,255	300	428	1,160	240	310
合 計	52,993	2,325	5,527	57,500	3,200	6,450

機能性材料事業 業績計画

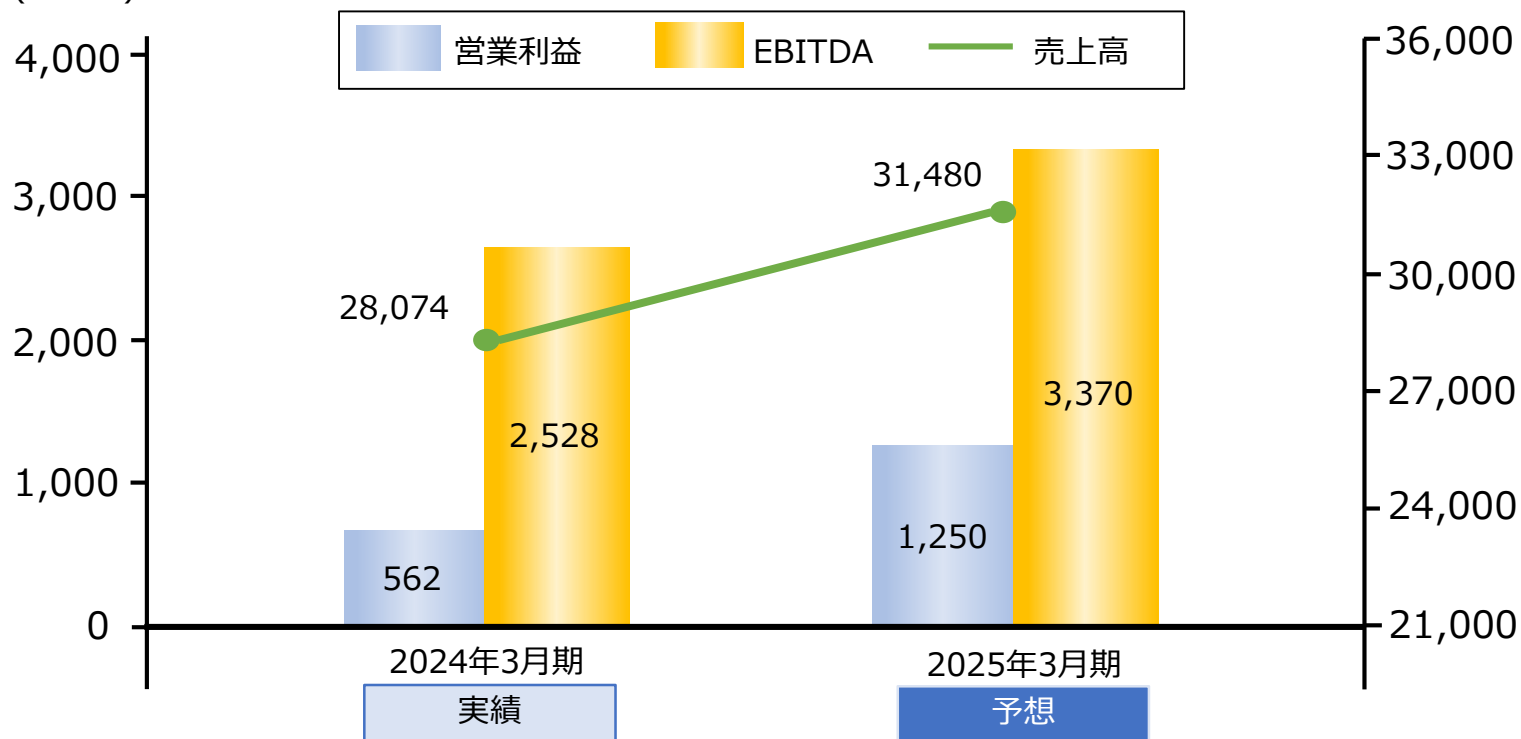
【事業環境の見通し】

汎用用途の酸化チタンは、原燃料価格の高止まりによるコスト上昇や中国の景気低迷の影響もあり、引き続き収益面での厳しい状況を予想しておりますが、全社徹底したコスト削減に加え、価格改定も含めた収益改善に取り組んでおります。

機能性用途の微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛および表面処理製品に関しましては、上期は販売が好調に推移したものの、今後も各国の市況を注視しつつ、更なるシェア拡大に努めます。

営業利益、EBITDA
(百万円)

売上高 (百万円)



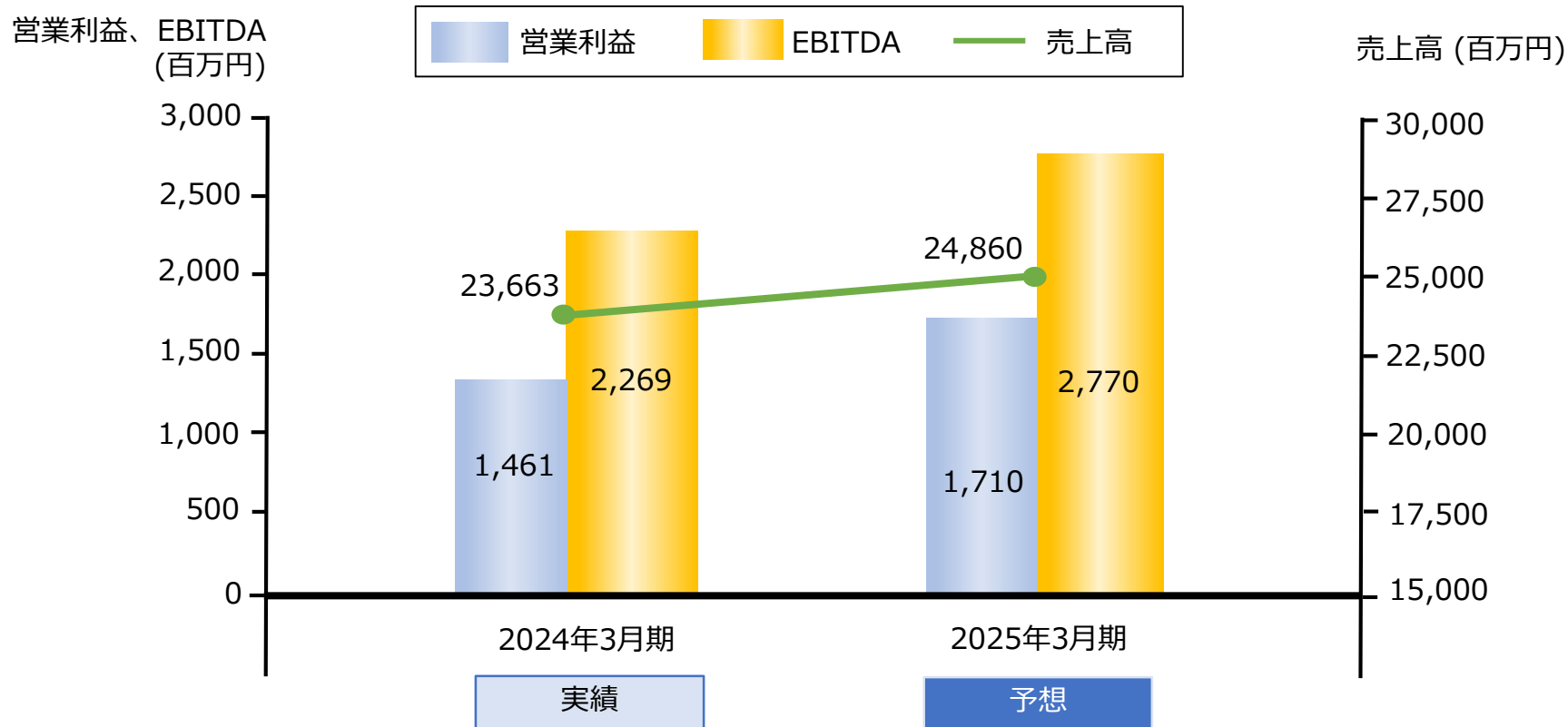
電子材料・化成品事業 業績計画

【事業環境の見通し】

導電性高分子薬剤は、車載用やサーバー用コンデンサ用途を中心に、好調な推移を見込んでおり、需要の拡大に対応すべく生産体制を拡充し、より一層の事業拡大を進めます。

圧電材料は、これから特に販売が伸長するアジア並びに米国に向け、日・米両製造拠点から安定的かつ効率的な提案と供給を行い、更なる販売拡大に努めます。

また、化成品事業に関しましても、洗剤など日用品向けの需要は堅調に推移すると見ており、タイ・ベトナムの関係会社とともに、世界各地での需要の対応に力を注ぎます。

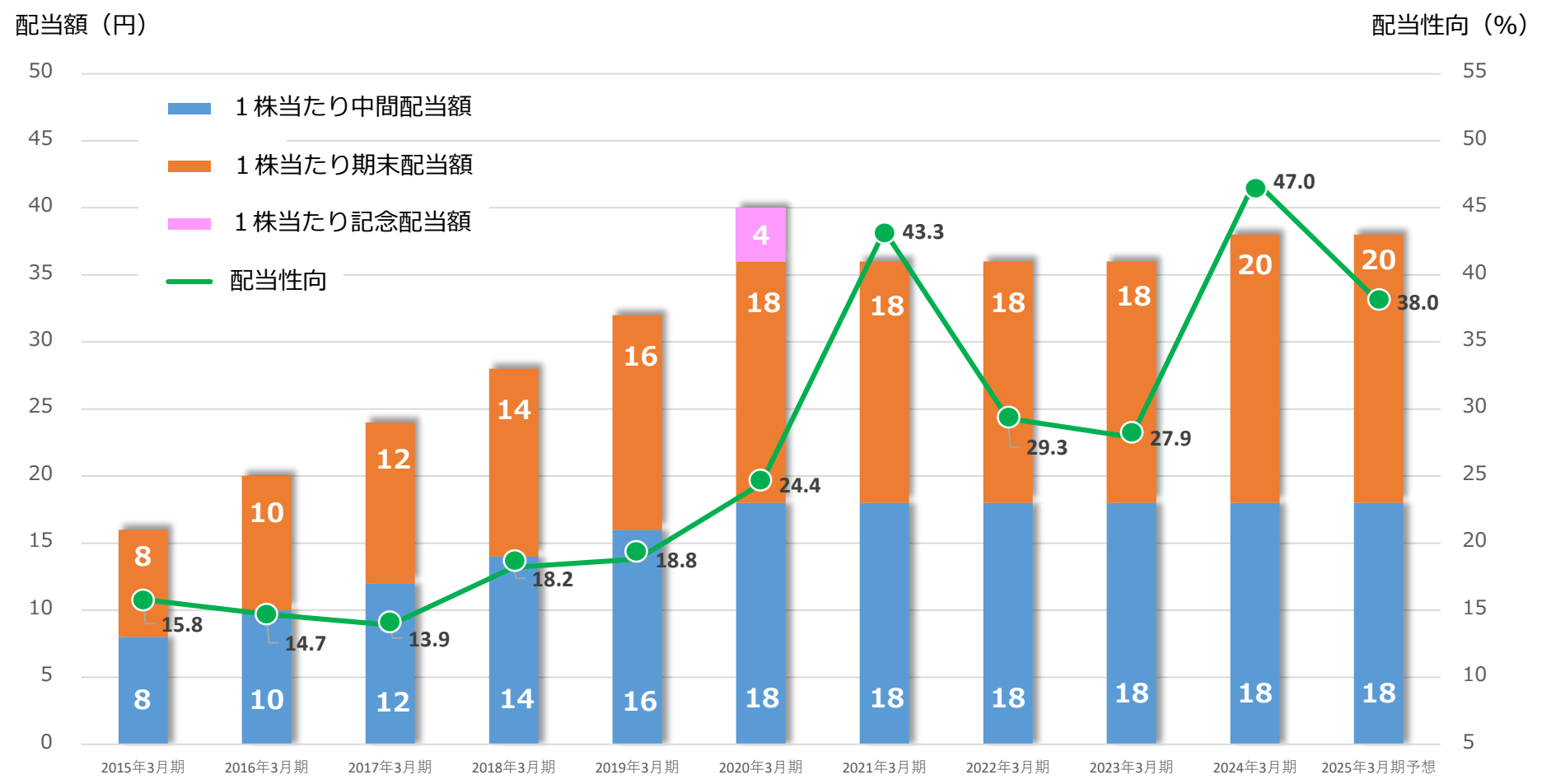


● 経営指標

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想
1株当たり当期純利益（円）	128.86	80.60	99.93
自己資本利益率（ROE）	5.7	3.4	4.0
総資本経常利益率（ROA）	6.4	3.5	4.1
売上高営業利益率	7.7	4.4	5.6
自己資本比率	70.3	69.3	67.1

4. 株主還元

株主還元（配当金）



株 価	1, 6 2 8円	(2 0 2 4 年 1 2 月 2 日 終 値)
配当利回り	2. 3 3 %	* 2 0 2 4 年 度 配 当 予 想
P E R	1 6. 2 9 倍	* 2 0 2 4 年 度 業 績 予 想
P B R	0. 6 3 倍	* 2 0 2 3 年 度 実 績

株主還元（PBR向上）

【PBR向上に向けた取り組み】～テイカブランドの確立～

株主・投資家との対話活性化

- ◆ 個人投資家向け会社説明会実施
→年2回以上(本年は6/3,12/19(予定))
- ◆ 機関投資家向け決算説明会実施
→年2回（本年は6/3,12/3実施）
- ◆ 継続的な機関投資家との面談実施

広報・発信活動の強化

- ◆ 化粧品原料、圧電材料等製品
コンテンツ拡充
- ◆ 新規開発品情報開示拡充

- ・ 経営基盤の構築と成長投資・株主還元のバランスをとり、収益力の強化を図るとともに、積極的なIR活動を通じてステークホルダーとの共創とテイカブランドの確立を目指す。

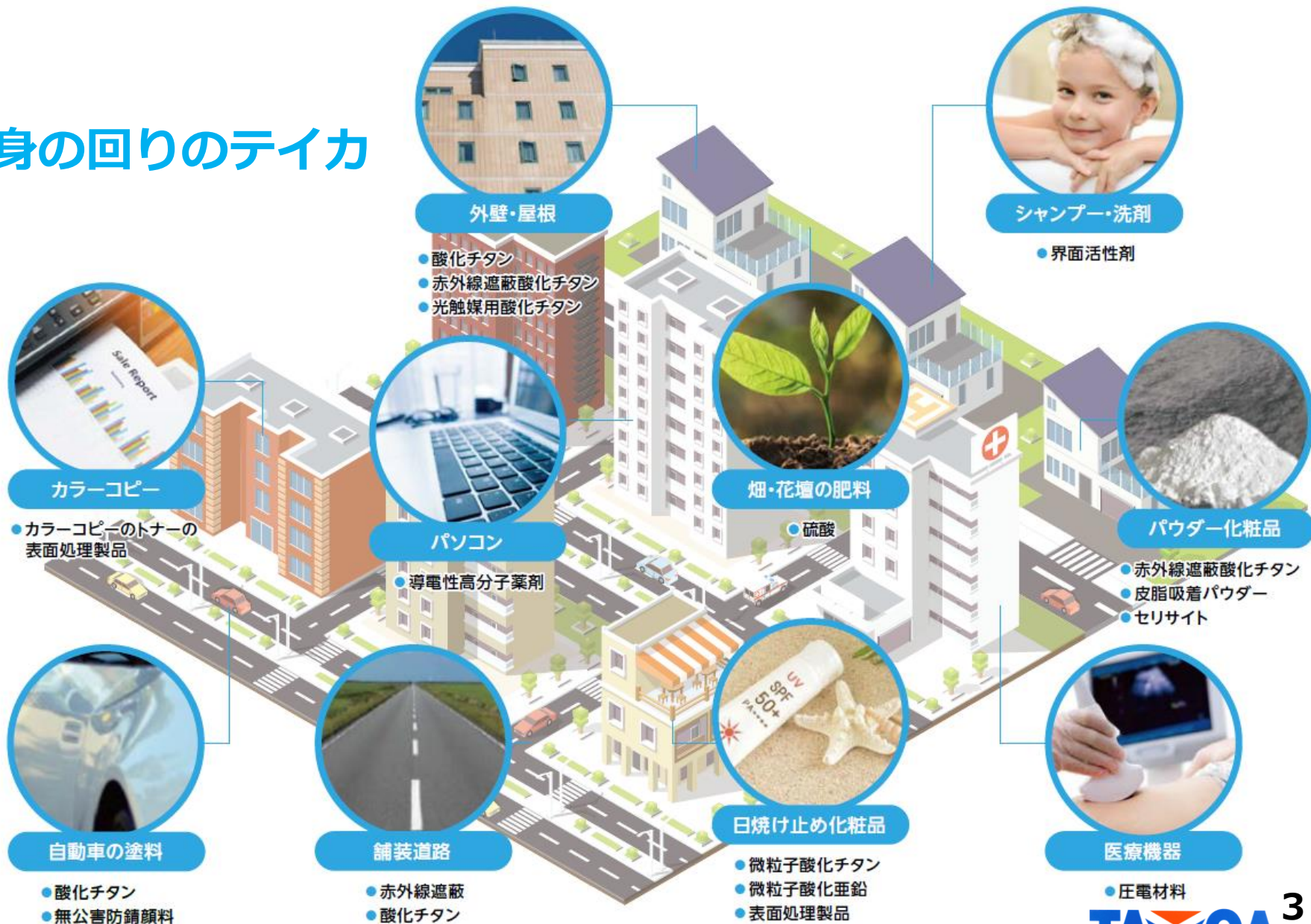
PBR 1.0倍以上の実現

5. 付属資料

会社概要

- 社名 テイカ株式会社 TAYCA CORPORATION
- 創立年月日 1 9 1 9 年（大正 8 年） 1 2 月 2 2 日
- 資本金 9 8 億円
- 年商 5 2 9 億円（連結 2024年3月期）
- 従業員数 8 1 5 名 （連結 2024年3月31日現在）
- 上場証券取引所 東京証券取引所 プライム市場（証券コード：4027）
- 事業内容 各種化学工業薬品の製造、販売
酸化チタン、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、
表面処理製品、圧電材料、導電性高分子薬剤、
界面活性剤、硫酸、無公害防錆顔料 等

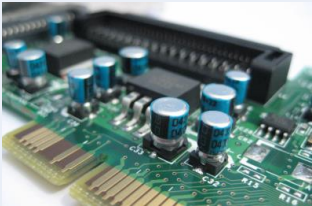
身の回りのティカ



事業紹介（機能性材料事業）

	製品名	用途	概要
機能性材料事業	酸化チタン		酸化チタンは優れた白色顔料として、塗料、インキ、プラスチック、化学繊維、製紙など白いものはもちろん、色のついたもののほとんどに使用されています。 また、白色度、着色力、安全性、化学的安定性など優れた性質をもち、社会のあらゆる分野で役立っています。
	微粒子酸化チタン		微粒子酸化チタンは、一般の白色顔料用酸化チタンに比べてはるかに小さい10～50nmの粒子径を有する超微粒子であるため、例えば、可視光線部における光透過性と紫外部での光遮蔽性が大きい等の特徴ある性質を備えており、しみの原因となる紫外線UVBの遮蔽性に優れています。
	微粒子酸化亜鉛		微粒子酸化亜鉛は、微粒子酸化チタン同様、優れた紫外線遮蔽能力を持つ機能性粉体です。微粒子酸化チタンと比較して、可視部における透明性が高く、しわ、たるみの原因となる紫外線UVAの遮蔽性に優れています。
	表面処理製品		微粒子酸化チタンや微粒子酸化亜鉛等の無機粉体が持つ優れた特徴を最終製品で発揮できるよう、各種有機化合物で表面処理した粉体製品です。表面処理を行うことにより、粉体表面が親水性や親油性に改質され、耐光性や分散性などの特長を付与できます。化粧品原料、プリンターのトナー用外添剤をはじめ幅広い分野で使用されています。
	光触媒用酸化チタン		光触媒用酸化チタンは、紫外線や水・酸素などのクリーンなエネルギーによって発現する酸化チタンの酸化力を利用し、有害な有機物を分解・除去します。これら光触媒効果を活用した、汚れ防止効果を付与した外壁や脱臭効果を付与したインテリア等が実用化されています。

事業紹介（電子材料・化成品事業）

	製品名	用途	概要
電子材料・化成品事業	圧電材料		圧電材料は、電圧を加えることで、伸縮を繰り返し振動する現象を利用し超音波を発生させることができます。エコー検査に使われる医療用超音波診断機はこの機能を利用しています。発生した超音波から画像を映し出すことで、エックス線などは使わず、体の中を安全に調べることができますので妊婦検診や心臓・腹部等の診断で多く使われています。
	導電性高分子薬剤		白川英樹博士のノーベル賞受賞で知名度が広まった導電性高分子。添加物を加える「ドーピング」で、プラスチックのような電気が流れない絶縁体を電気が流れる「導電体」に変えます。当社はいち早くこの性質に着目し、当社固有技術と融合させ、様々な要求特性に対応した導電性高分子薬剤を開発。パソコンの駆動に欠かせないコンデンサに使用されています。
	界面活性剤		界面活性剤は、水と油の両方になじみやすい性質をもち、洗浄、乳化、分散、可溶化などの働きを利用して、洗剤、シャンプーなど生活用品から工業分野にまで広く使用されています。
	無公害防錆顔料		当社は、リン酸塩の研究を長年続けた結果、世界に先駆けてリン酸塩Kシリーズ、無公害型防錆顔料の量産技術を確立し工業化いたしました。地球環境にやさしい技術として、防錆剤、硬化剤、吸着剤など多用途に利用され高い評価を得ています。
	硫酸		硫酸は医薬品、化学肥料といった化学品産業から金属、鉄鋼といった重工業まであらゆる分野での基礎原料となっています。当社では、創立当初より硫酸の製造を開始。この硫酸を基礎原料に酸化チタン、界面活性剤の製造に着手してきました。